

■ 期末考査に向けて



7月3日(月)から7月6日(木)まで1学期期末考査が実施されます。考査が近くなりましたが、準備は順調に進んでいますか? 3年生で特に指定校推薦や公募制推薦で大学進学を希望している人は少しでも評定平均値を上げようと意気込んで学習に取り掛かっていることと思います。進学・就職を問わず、1年生から3年生の1学期までの成績が志望校や志望企業に送られていくことになりますので、3年生諸君は特に気を引き締めて今回の期末考査に臨んでほしいものです。

1・2年生の諸君も、いずれ評定平均値が気になって仕方がないという時期が来るものと思われます。そのときになって、「あのとき、しっかりと取り組んでいれば良かった。0.1足りなくて推薦の対象にならなかった・・・」などと後悔しなくて済むよう、きちんと準備して考査に臨んでください。特に1年生の諸君は、中間考査を受けてどのような形で定期考査が出題されるか分かったかと思えますので、その反省を活かしてください。ちなみに、日本学生支援機構の奨学金についても、貸与型の第1種(※返済の際、利子なし)および給付型を希望する生徒は評定平均値3.5以上(※5段階評定。ただし、給付型については救済措置あり)が基準となります。1回1回の定期考査を大切にしていきましょう。

■ 1年生にリクルート講演会

5月26日(金)の5~6校時に1学年を対象にリクルート講演会を実施しました。3年間を通して、目的意識を持ち計画的に希望進路実現に向けて準備を進めていけるように1年生の段階から意識を高めさせるために行いました。最初の1コマは「適性検査」を行い、2コマ目は講演を聞いたうえで、ワークシートを進めてもらいました。講演会を実施する目的



の一つに、総合型入試や推薦入試の際の志願票作成や面接において、自分の言葉で記入したり話したりできるようにすることがあります。3年生になって進路活動を進めるにあたって、なかなか自分の言葉で志願票を作成できない生徒が多いのですが、ぜひ、自分の言葉で思いを伝えられるよう少しずつ準備を進めていってほしいと思います。当然ですが、「自分は何をやりたいのか? (自分は何に興味があるのか?)」「自分が学びたいことや取得したい資格について学べる学校はどこなのか?」「進学するにあたって、必要な費用は?」などといったことも意識して、準備を進めていくようにしましょう。準備を進めていくにあたり、早いに越したことはありません。

■ 3年生に進路ガイダンス実施

3年生の進学希望者に対する進路ガイダンスを6月上旬の昼休みに数回にわたって実施しました。本来であれば、放課後に一定時間を確保し、丁寧に説明したいところでしたが、なかなか時間がない中、短い時間で進路活動を進めていく上での重要事項についてお伝えしました。出願書類については当然のことながら、それぞれ提出期限がありますので、くれぐれも遅れることのないように注意しましょう。



調査書については、2学期が始まると、9月中に総合型入試を実施する大学や専門学校、あるいは採用試験を実施する企業が多く見られるため、担任の先生が作成で忙しくなります。進学用と就職用とで入力内容も異なる部分があるため、確実に準備できるよう少なくとも10日～2週間前には申請するようにしてください。

受験終了後は、記憶が新しいうちに必ず受験報告書を書いて、進路指導部に提出するようにしましょう。3年生諸君も、昨年度以前の卒業生の受験報告書を見に来て、いろいろ調べていくことがありますが、やはり、情報量が多く、丁寧に書かれている先輩の受験報告書は「大変参考になった」と感想を述べていく生徒が多いです。学校の財産となりますので、そのような意識で書くようお願いいたします。

■ 3年生の就職希望者へ

3年生の就職希望者に対するガイダンスについては、1学期期末考査終了後、7月に入ってから、開催したいと考えています。特に、求人票の見方、職場見学等についてお話ししますので、よく聞いて、着実に就職活動を進められるようにしてほしいと思います。7月以降は、学校でWEBサービス上から求人を探すこともできますので、そちらを活用していただいても構いません。基本的に、いわき市内の高卒求人については、すべて進路指導室で閲覧できるよう準備するつもりです。いわき市外出身で、地元での就職を希望する場合には、地元の求人を検索できるよう進路指導室でお手伝いすることができます。一般企業への就職を希望する場合、多くの生徒は求人票で探すことになるかと思われそうですが、親御さんの知り合いの企業経営者に声をかけられているなど、「縁故」での就職が決まっていたり、決まりそうな場合には、必ず担任や進路指導担当者に連絡し、活動の進め方や必要書類について確認するようお願いいたします。職場見学や志望企業への出願書類提出など、基本的に就職関係については、学校を通して進めてもらうことになります。各自で職場見学について企業に問い合わせたりはできませんので、注意してください。みなさんの先輩で過去に学校側で再三にわたって注意していたにもかかわらず、お家の方が職場見学について問い合わせた人がいました。



■卒業生の合格体験記

昨年度卒業生の合格体験記です。今回は岩佐希夢さんです。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 岩佐希夢さん（昨年度3年4組）
専修大学経営学部合格 神奈川大学経済学部合格
拓殖大学外国語学部合格

私の受験生時代を振り返りながら、これから受験を経験する皆さんに役立つ情報を少しでも提供できたらと思います。

まず勉強において大切なのは、余計なことは避けて勉強に集中することだと思います。例えば、学校の授業では理解できなかったから塾に通う人がいるでしょう。私の場合は、塾に通わずにスタディサプリやTry ITなどのオンデマンド授業を活用しました。なぜなら、地元の塾講師などから勉強に口を出されるのが私にとっては余計なことだったからです。オンデマンド授業なら、塾講師と関わる必要もないし、塾に通うよりも安い値段で大手予備校の人気講師のわかりやすい授業を受けることができます。私のように何らかの理由で塾に通わない、または塾に通えない人はオンデマンド授業を活用すると良いと思います。私がよく使っていたのは、スタディサプリの英語（関正男先生）とTry ITの日本史です。Try ITは無料なので今すぐに使うことができますし、スタディサプリは有料ですが、関正男先生の英語だけでも元が取れるくらい分かりやすいのでぜひ活用してみてください。



他にも余計だな、邪魔だなと思うことはたくさんあると思います。学校という集団生活の場で義務のようにこなしていることも、自分のためになっていないかかったり、成績が伸びなかったりしたら避けるのも一手だと私は思います。みんなと同じように、言われたことをすることも大切ですが、結局は受験が上手くいっても失敗しても、責任を取るの友達でもなく先生でもなく自分自身なので、自分に合うことを自分なりにすることの方が大切だと思います。ただ、それを避けるにあたって注意しなければならないことがあります。それは自分に甘えてしまうことです。自分に甘えて、言い訳をして勉強をサボるだけなら言われたことをこなしている方がマシです。みんなが当たり前のようにしていることを避けるにはそれ相応の覚悟が必要なので、強い覚悟をもって自分に合う勉強をしてください。

これからのみなさんの行動によって、受験の結果が変わってきます。先にも述べたように全責任を取るの自分自身なので、努力するもしないも自由ですが、ただ後悔のないよう、これからの受験勉強を頑張りたいと思います。

■日本学生支援機構予約採用、注意事項の確認

日本学生支援機構奨学金の予約採用の申込み書類について、6月での申込み希望者の提出書類を受け付けていて、本人が記載しなければならない欄も保護者の方が記入されているのが目立ちました。その他、事前に学校側で注意していた事柄について、きちんとおこなわれていない細かいミスも多々ありました。十分にご注意ください。なお、スカラネット入力にあたっては、『申込みのてびき（ピンク色の冊子）』のP.4~21までしっかりと下書きをしておくよう、ご家庭でのご協力をお願いいたします。特にP.11~21については詳細な下書きがないと入力できませんので、ご記入方お願いいたします。6月での入力は27日（火）と29日（木）の2日間になります。



■ 広島サミットから

5月19日（金）から5月21日（日）まで広島でサミットが開催されましたが、日本では何回目のサミット（主要国首脳会議）か知っていますか？

1975年にフランスのランブイエで第1回目が開催されてから今回で49回目のサミットとなります。参加国については、元々はアメリカ、フランス、イギリス、西ドイツ（現ドイツ）、日本の5か国でしたが、その後、イタリアとカナダが加わり、1990年代から15回ほどロシアが参加していた時期もありました（※ロシアが参加するようになり、日本語では先進国首脳会議ではなく主要国首脳会議と表記されるようになりました）。近年はEU（欧州連合）の理事会議長や委員会委員長も参加するようになりました。今回の広島サミットには、グローバルサウスに属する国の関係者も招待され、世界全体を視野に入れた問題の解決がテーマになりました。



日本でのサミット開催は今回が7回目になります。3回目までは東京で行われていましたが、4回目の沖縄県での開催以降、5回目が北海道、6回目が三重県、7回目の今回が広島県での開催となりました。日本の美しい風景を世界に発信する良い機会であると同時に、今回の広島でのサミットのように、戦争の悲惨さについて考え、そこから見事に復興・発展した姿を世界に発信する機会にしようとする様子もうかがえます。

今回のサミットでは、ウクライナのゼレンスキー大統領が来日したことが大きな話題となりました。その際、アメリカのバイデン大統領がゼレンスキー大統領と武器の供与を約束したことについて、広島の人々から非難の声が上がりました。被爆地・広島で戦争解決の指針が示されるのではなく、戦争を助長させるような話が展開されるとは何かと……。確かに、このロシアとウクライナの戦争を早く終結させてほしいという思いは誰もが持っているでしょうし、広島でのサミットの最中に武器供与の話が出て、それに対する非難の声が上がるのも理解できなくはありません。しかし、この戦争を終結させるためには、この戦争を起こした国のトップが終結の方向に舵を切らなければ、そもそも問題解決には至らないものと考えます。

今回の広島でのサミットがきっかけとなり、世界がより良い方向に向いていくことを望みますが、それぞれの国で経済的状況などが異なり、なかなか一つの方針を出しにくいということはあるかと思われます。議長国として、岸田首相がリーダーシップを取り、世界全体で協力していく姿勢を取っていかれるかどうかはいずれ結果となって表れてくるでしょう。戦争や紛争は何もロシアとウクライナに限ったものではなく、世界全体に目を向ければ、長期的に続いている民族紛争などが後を絶ちません。一人でも犠牲者が出ない世界を形成していくことをみんなで考え、私たち一人ひとりが少しでも何らかの行動に表していくきっかけになれば、今回のサミットを日本で、広島でやった意味があったということになるのかもしれませんが。平和でないとい何もできませんし、コロナ禍で私たちが学んだことがたくさんあるはずで、その学びも含めて、より良い世界にしていくにはどうしたら良いかを常々考えていってほしいと思います。

文責：清水聖（進路指導主事）